

— 地域の魅力が世界に響く —

HOW TO

多言語

解説文整備

文化財・自然・観光資源

韓国語版解説文

整備ガイド

〈知ってもらう〉前に、知っておく！

外国人旅行者に、地域の「魅力」を持ち帰ってもらうために——。
旅行者のことを知っておくという「おもてなし」の気持ちを込めた
英語から韓国語へ解説文を整備するノウハウを、ご紹介します。

観光は、本格的な少子高齢化・人口減少を迎える我が国において、成長戦略と地方創生の大きな柱です。日本政府は、2030年までに訪日外国人旅行者（以下「外国人旅行者」という）を6,000万人に増やす目標を掲げ、官民を挙げて取り組み、2019年、外国人旅行者数は3,188万人に達しました。

一方、市場別では、韓国からの旅行者（以下「韓国語圏旅行者」という）の数は2018年に735万人でピークを迎えた後、翌2019年7月頃から始まった日本製品不買運動と2020年からのコロナ禍により大きく落ち込みましたが、コロナ禍の収束以降は再び堅調な伸びを示し、2024年には880万人に達しています。

さらに多くの外国人旅行者に来てもらい、満足して帰っていただくには、我が国の文化、歴史、自然等の観光資源をいかに活用するかが重要です。とりわけ、外国人旅行者にとって読みやすく、分かりやすい魅力的な解説文を作成することは、外国人旅行者の満足度を高める上で必要不可欠です。これらの認識の下、すでに各地域では多言語解説の整備を行っていますが、解説文が乱立している施設や説明不十分な解説文がある等の課題が散見されます。そのため観光庁では、文化庁・環境省と連携して平成30年度から「地域観光資源の多言語解説整備支援事業（以下「観光庁多言語事業」という）を実施し、「国立公園」、「世界遺産」、「国宝・重要文化財」、「地域伝統芸能」、「祭り」、「食文化」及び「温泉」等の観光資源について、解説文を作成してきました。

一方、今後の韓国語圏旅行者の更なる増加に伴い、韓国語解説文作成のニーズが高まることが予想されることから、令和2年度より、観光庁多言語事業の英語解説文を活用し、「地域観光資源の韓国語解説整備支援事業（以下「本事業」という）」を開始しました。本事業では、令和6年度までに作成された計94地域の英語解説文を元に、韓国語圏旅行者の関心・嗜好を十分に考慮した上で、韓国語圏旅行者が魅力を感じる韓国語解説文に翻訳しました。

本ガイドライン『HOW TO 多言語解説文整備韓国語版』は、今後、観光庁多言語事業で作成した英語解説文を元に韓国語解説文の整備を行おうとする地域が、韓国語圏旅行者にとって魅力的な解説文を作成する際に参考とするガイドラインとしてまとめたものです。

今後も本事業において新たな知見が得られた場合、本ガイドラインを改定していく予定です。これまでのノウハウを詰め込んだ本ガイドラインが、多言語整備を行う予定の皆さまのお役に立てることを願います。

Pick Up

「解説文」とは？

「解説文」とは、観光資源であるあらゆる分野のもの・ことに対して、事実をもとに正確に書かれた説明文のことです。

本事業では、観光資源のもの・ことについて、日本の知識レベル初心者から日本文化・社会などに対して深い理解を持つ層まで幅広い「訪日外国人旅行者」が理解でき、楽しんで観光するための有益な情報を提供する解説文の整備を目指しています。

このガイドラインを通じてどのように解説文を作成していくのか学んでいきましょう！

この冊子の構成と内容

第1章の内容

韓国語圏旅行者は、観光地に関する情報収集に対して、どのような期待を持っているでしょうか？ 観光庁が実施したアンケート調査の結果をもとに、韓国語圏旅行者のニーズと、それへの対応の現状を概観します。

韓国語解説文の必要性や望ましい解説文のあり方について知りたい方は、この章をご覧ください。また、章末の自己診断シートを用いて、地域の現状を確認してみましょう。

第2章の内容

韓国語解説文の整備は、どのような方針で、何に注意して進めればよいのでしょうか？ 韓国語圏旅行者にとって魅力的で役に立つ内容とするために、理解しておきたいポイントをご紹介します。

韓国語解説文の整備に携わるスタッフが共有しておくべき知識・認識について知りたい方は、この章をご覧ください。

第3章の内容

韓国語解説文は、具体的にどのような手順で作成すればよいのでしょうか？ また、その準備にはどのくらいの期間が必要でしょうか？ 韓国語解説文の作成の手順をステップに分けて詳細に説明します。

韓国語解説文の整備に必要なスタッフの構成と役割、地域との確認作業の流れについて知りたい方は、この章をご覧ください。

本事業の体制

本事業の有識者体制等を紹介します。

目次

はじめに	2
------	---

第1章 観光地における韓国語解説文の現状と課題 9

旅行者から見た韓国語解説文の現状	10
------------------	----

自己診断 地域の多言語解説文の現状は……？	12
-----------------------	----

第2章 韓国語解説文作成における基本的な考え方 13

韓国語解説文の整備において重視すべきポイントの概要	14
---------------------------	----

ポイント1 日本文化に対する認識や知識の違いを意識する	15
-----------------------------	----

ポイント2 旅行者の興味・関心を把握する	17
----------------------	----

ポイント3 媒体の種類や特徴に応じた文章表現に留意する	19
-----------------------------	----

ポイント4 名称の表記法を検討する	24
-------------------	----

ポイント5 専門性と経験を備えた人材を確保する	26
-------------------------	----

第3章 韓国語解説文作成の進め方 29

韓国語解説文作成手順の全体的な流れ	30
-------------------	----

韓国語向けにふさわしい内容の解説文の下準備 (STEP 1 ～ STEP 3)	32
---	----

韓国語解説文の作成と確認 (STEP 4 ～ STEP 5)	36
--------------------------------	----

韓国語解説文の完成 (STEP 6 ～ STEP 7)	40
-----------------------------	----

本事業の体制 42

Pick Up

「解説文」とは？	3
----------	---

解説文に対する満足度調査	18
--------------	----

事業の主体者もメインとなって推進することの重要性	31
--------------------------	----

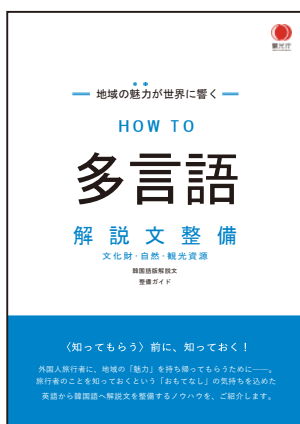
この冊子について

この冊子『HOW TO 多言語解説文整備韓国語版』は、韓国語解説文整備を行う際のガイドラインです。本事業では、日本人と文化的背景が異なり、知識レベルも感性においても多様な外国人に向けて、観光資源の魅力を伝え、理解を深めてもらうことができる解説文の作成を目指しています。韓国語圏旅行者の関心・嗜好を考慮した上で、どのような点に配慮し、どのように作成を進めていくと、魅力的な韓国語解説文ができるのか、本事業を通じて蓄積されたノウハウを紹介します。

本事業のこれまでの成果物

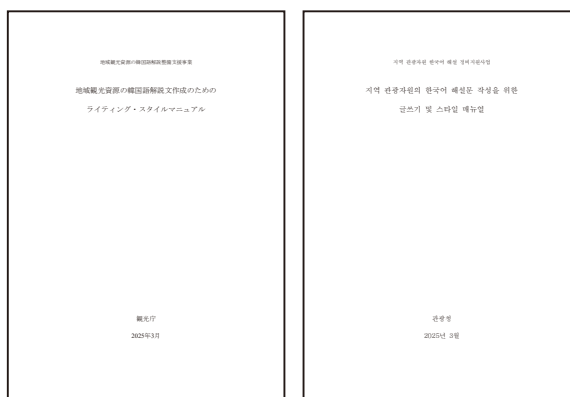
本事業では、観光資源所有者や管理者、事業者等が、観光庁多言語事業で作成した英語解説文を元に韓国語解説整備を行う際に参考となるよう、次の4点を作成しました。既存の韓国語解説文の見直しを行う際や、新たに韓国語解説整備を実施する際に、ぜひ参考にしてください。

1. HOW TO 多言語 解説文整備



韓国語解説整備を行うにあたり、どのような点に考慮・配慮し、どのように作成を進めていくと、韓国語圏旅行者の興味・関心を引き、かつ分かりやすい韓国語解説文ができるかを示すガイドラインです。

2. ライティング・スタイルマニュアル 日本語版・韓国語版

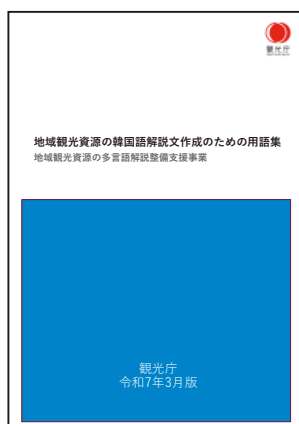


韓国語解説文を作成する事業者（翻訳者、エディター等）が作成を進めていく際に、参考とするスタイルに特化したマニュアルです。ただし、「これが正しい」と示す方式をとらず、韓国語圏旅行者をターゲットに「この言葉では伝わっていない可能性がある」「このように伝えたほうが分かりやすい」という視点に立ち、理由と具体例を用いて説明しています。すでに地域に同様のスタイルマニュアルがある場合でも、ぜひ参考としてください。

●「地域観光資源の韓国語解説整備支援事業」事業全体の紹介

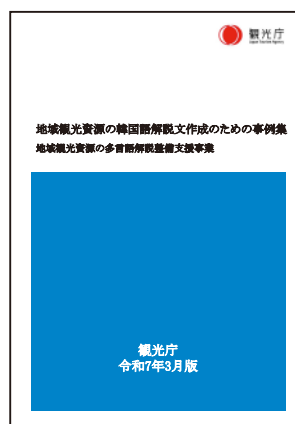
本事業は、今後韓国語圏からの訪日外国人旅行者の増加に伴い、韓国語解説文作成のニーズが高まることが予想されることから、平成 30 年度から実施している観光庁「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」の成果物を活用し、専門人材のリストの作成、韓国語解説文作成の支援、韓国語解説文作成に関するノウハウの蓄積等を行い、各地域における観光資源の魅力を伝える韓国語解説整備を促進しています。

3. 用語集



観光資源の所有者や管理者、及び韓国語解説文を作成する事業者（翻訳者、エディター等）が作成を進めていく上で、参考とする専門用語事例集です。

4. 解説文事例集



本事業において作成された解説文全点を掲載したアーカイブです。韓国語圏旅行者にとって魅力的な解説文を整備するために、観光資源の所有者や管理者及び制作事業者が何に、どのように取り組めばよいのか、韓国語解説整備に役立つ事例を具体的に紹介しています。

第 1 章

観光地における韓国語解説文の 現状と課題

韓国語圏旅行者は、観光地に関する情報収集に対して、
どのような期待を持っているのでしょうか？

観光庁が実施したアンケート調査の結果をもとに、
韓国語圏旅行者のニーズと、それへの対応の現状を概観します。

旅行者から見た韓国語解説文の現状

旅行者は解説文にこんな期待を寄せています！

観光地において、観光資源の解説文整備とその多言語化が進められています。では、訪日外国人旅行者は、それらの解説文をどのように評価しているのでしょうか。

令和5年度に韓国の訪日経験または訪日意向がある者を対象として実施した「地域観光資源の韓国語解説整備支援事業」アンケート調査の中で、「日本を旅行中、観光地の説明（解説文）を読んだ際に困ったこと」という問いに対する回答から、次の2つの示唆が得られました。

① 韓国語の解説文がほしい！

媒体の問題である「デジタル化されていない」という回答を除くと、「韓国語の解説文がないこと」が訪日中に最も困ったこととして挙げられました。韓国語圏旅行者の増加に伴い、韓国語解説文に対するニーズも拡大しており、韓国語解説文の整備は韓国語圏旅行者の満足度を高める上で必要不可欠です。

② 分量が適切で興味深い内容の解説文がほしい！

一方、すでに韓国語解説文が整備されている場合でも、その解説文の内容に対しては、「情報量が多すぎる・文が長すぎる」「情報量が少ない」「専門用語が多く理解するのが大変」という評価が見受けられました。

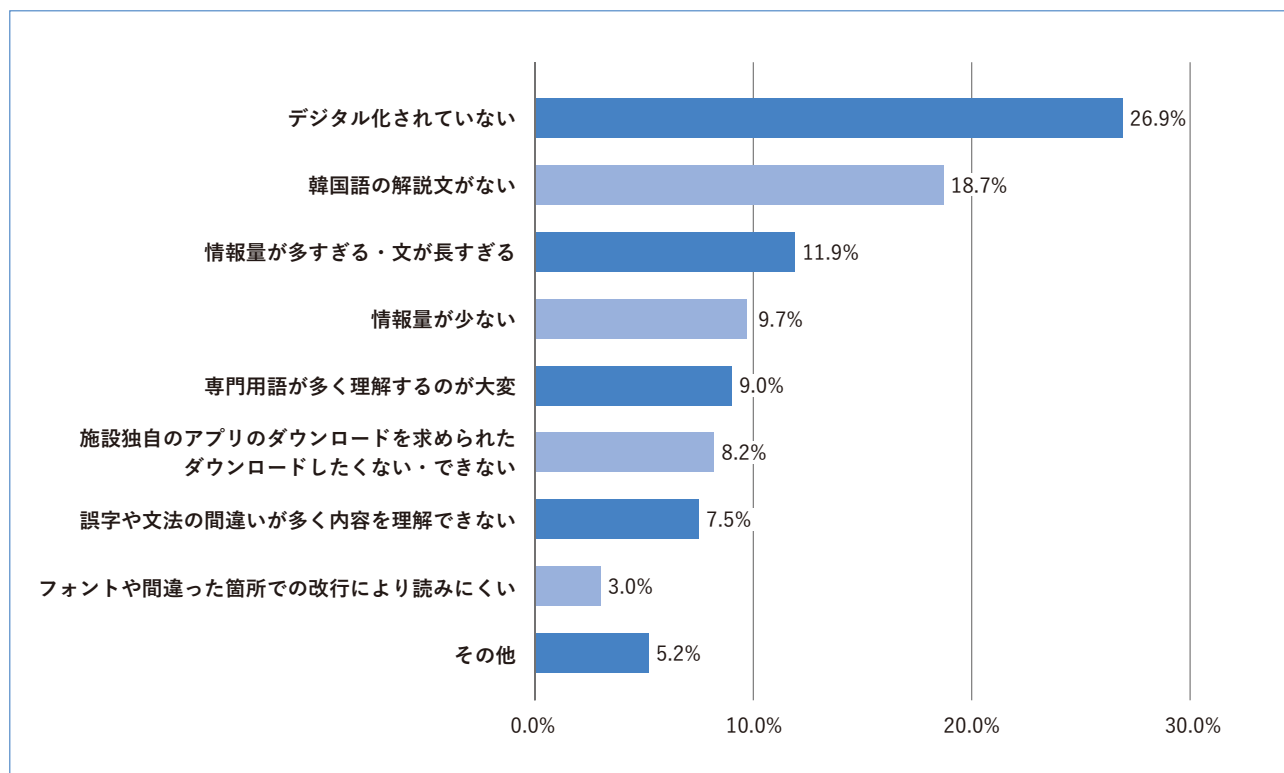
つまり、すでに韓国語解説文が整備されている場合でも、韓国語圏旅行者の目線で内容や表現を再検討する必要があることが分かります。例えば、直訳や機械翻訳によって作成された解説文では、旅行者に内容が伝わりにくくなっている可能性もあります。

また、それぞれの観光地でアピールしたい点として、日本の文化や習俗、歴史に関する説明が高い比率を占めることとなりますが、予備知識を必要とするほどの詳しすぎる内容では、一般的な観光客にとっては難解であり、関心を持って読み進めてもらえる魅力的な解説文とは程遠いものになってしまうことでしょう。

理解を助けるために、漢字の併記や補足説明等を用いることもできますが、それらについても、あまりに多いと冗長になってしまうため、どの程度のレベルで行うか検討する必要があります。

読み手にとって分かりやすく魅力的な韓国語解説文を作成するためには、韓国語圏旅行者のニーズや嗜好、興味関心を見極め、それに適した内容と表現にすることが重要です。

アンケート調査の結果と、解説文作成時の留意点については右ページをご覧ください。



令和5年度 観光庁「地域観光資源の韓国語解説整備支援事業」アンケート調査

▼こんな解説文は「要改善」

情報の内容が……

少なすぎる

観光において有益な情報が不足している

※交通情報や寺社の参拝マナーなどの留意事項に至るまで、観光客の視点に立ってさまざまな側面から必要な情報を検討することが望まれています。

多すぎる

共通の文化的背景があつてすでになじみのある内容なのに、説明が詳しすぎる

※とりわけ仏教に関連する内容では、詳細な解説は必要とされない傾向が見られます。

難しすぎる

専門性が高すぎて、説明の内容も、解説対象の紹介価値も理解しにくい

※とりわけ自然（動植物）や文化財（建築）の説明で、地域独自・日本独自の専門用語を多用しすぎて理解が難しくなっているケースが多いようです。

解説文の表現が……

冗長すぎる

文字数が多すぎて、途中で読むことを諦めてしまう

不自然すぎる

直訳調の表現や誤字・脱字等の誤りが目立ってスムーズに読めない

散漫な構成である

伝えたいポイントが絞られておらず、説明が漫然としている

興味をそそらない

専門用語が羅列されていて学術向けの文章のように感じられる

Check!

自己診断 地域の多言語解説文の現状は……？

韓国語解説文をめぐって、しばしば見られる問題点をピックアップしてみました。

ご自身の地域の現状はどうでしょうか。まずは、セルフチェックをしてみましょう。

地域在住の韓国語ネイティブの意見を実際に聞きながらチェックしてみましょう！

- ☒ 韓国語圏旅行者が来訪している施設・場所なのに、
韓国語解説文が整備されていない。
- ☒ 解説文は以前に整備済みだが、時流に合わせた見直しなどは
行っていない。
- ☒ 日本語解説文または英語解説文を、韓国語に直訳したり、
機械翻訳したりしている（しようとしている）。
- ☒ 韓国語圏旅行者が事前に持っている知識、認識をとくに考慮せず、
説明過多の内容になっている。
- ☒ 学術的な専門用語を多用した解説文であっても、
言い換えや補足説明などは行っていない。
- ☒ 看板、パンフレット、WEB ページなど、いくつかの媒体に
同じ韓国語解説文を使い回している（使い回そうとしている）。
- ☒ 韓国語の翻訳・編集を専業とする韓国語ネイティブに
依頼した解説文ではない。

1 つでもチェックがついたら改善が必要です。第 2 章を確認しましょう ▶

第2章

韓国語解説文作成における 基本的な考え方

韓国語解説文の整備は、どのような方針で、
何に注意して進めればよいでしょうか？

韓国語圏旅行者にとって魅力的で役に立つ内容とするために、
理解しておきたいポイントをご紹介します。

韓国語解説文の整備において 重視すべきポイントの概要

文化財施設や国立公園等の観光拠点では、その場所の歴史や背景的な情報を訪日外国人旅行者に理解しやすい形で伝えることが求められます。適切な情報を提供することができてこそ、訪れた人は観光資源について正確に理解し、評価することができるようになります。

外国人旅行者に向けた解説というと、文法や表現が正しいかというライティング技術に注目しがちですが、そのみに留まらず、韓国語圏旅行者の立場で役に立つ興味深い情報を盛り込み、簡潔かつ理解しやすい表現で、読み手の学びや感動を深めるものであることが望まれます。

そのような解説文を作成するには、以下のポイントが重要です。

ポイント

1

日本文化に対する認識や知識の違いを意識する

15 ページを確認しましょう ▶

「日本語解説文（英語解説文）をそのまま韓国語に翻訳すれば大丈夫」なのでしょうか……？ 旅行者が事前に持っている認識や知識についての配慮が必要です。

ポイント

2

旅行者の興味・関心を把握する

17 ページを確認しましょう ▶

旅行者にとって「読みたい、読んでよかった」と思える解説文になっているのでしょうか……？ 韓国語解説文に対してどのような期待を持っているのかを理解することが必要です。

ポイント

3

媒体の種類や特徴に応じた文章表現に留意する

19 ページを確認しましょう ▶

「SNS も解説看板も同じ文体で大丈夫」なのでしょうか……？ 旅行者がいつ、どのようにして情報に接触するのかをあらかじめ想定し、それに応じることが必要です。

ポイント

4

名称の表記法を検討する

24 ページを確認しましょう ▶

どんな名称でも「日本語の読み方をハングル表記すれば大丈夫」なのでしょうか……？ どのような表記が韓国語圏旅行者にとって理解しやすいのか検討することが必要です。

ポイント

5

専門性と経験を備えた人材を確保する

26 ページを確認しましょう ▶

「長期間の韓国滞在経験がある人だから大丈夫」なのでしょうか……？ 解説文整備に必要な知識・スキルについて理解し、適切な人材を起用することが必要です。

日本文化に対する認識や知識の違いを意識する

日本人向けの日本語の解説文は、日本人にとって当たり前の文化や習慣等を前提とした情報を掲載しています。しかしこれをそのまま各国語に翻訳した場合、日本の歴史や文化についての背景的な知識を持たない外国人旅行者には内容が難しく、理解しにくいものになってしまう可能性があります。地域によっては日本人向けの解説文を直訳したものや、機械翻訳の文章が使われている事例も少なくないようですが、これでは外国人旅行者にとって、不親切で満足度の低い解説文になってしまいます。

観光庁多言語事業の英語解説文は、これらの課題に取り組んだ結果、外国人旅行者の目線に沿った内容になっていて、英語圏に限らず旅行者にとって大変満足度の高い内容の解説文になっています。

一方で、韓国語圏旅行者を対象とするがゆえの情報の取捨選択も必要です。韓国語圏と日本は、歴史的、文化的に相互に影響を受けながら、発展の歩みを進めてきたことを考慮し、情報の過不足がないよう調整することが重要です。また、過去の歴史的経緯に鑑み、韓国語圏旅行者が読んだ際に不快に感じ得る内容は避けたり、表現を和らげたりするなどという気遣いも時には必要になってくるかと思います。

韓国語圏旅行者の立場に立って情報を整理した上で翻訳することが大切であり、その際に観光庁多言語事業で作成した英語解説文は、より魅力のある韓国語解説文作成の一助となるでしょう。

英語解説文の活用例（熊本市「観光」）

英語解説文「令和2年作成」・日本語仮訳

肥後（熊本）藩初代藩主、加藤清正（1562-1611）は、ここ加藤神社に神として祀られています。実際のお墓は、市の西部にある本妙寺に位置しています。

毎年正月には、地元で「清正公さん」と呼ばれている神様にご利益を祈願するため、3日間で約40万人の人々が加藤神社を参拝します。清正は、1588年から熊本の北半分、1600年からは熊本全域の領主となりました。大規模な治水事業を行い、地元の川を治め、安全で肥沃な土地にし、現在の熊本の礎を築きました。

大工と戦士のための神様

加藤清正は、建築家や大工から尊敬されており、その土木・建築の才能を称えられています。清正は、朝鮮出兵（1592-1598）においても、徳川幕府（1603-1867）樹立への転換点となった1600年の関ヶ原の戦いにおいても負け知らずであり、日本では剣道や野球などの競技をする人々の間で有名です。また、加藤が「勝とう」の同音異義語であることから、人々は清正に病気の克服や難関校の合格などのご利益を祈願します。

韓国語圏旅行者向けの情報

- ・ネガティブな感情を含む事柄（加藤清正の朝鮮出兵）についての記述を削除。
- ・「肥後国」「熊本藩」「熊本（市）」「熊本県」の区別に留意して再構成。

英語圏旅行者向けの情報

- ・漢字の同音異義語に関する記述は詳細な説明がなくても十分に伝わるため、韓国語解説文では割愛。

韓国語解説文・日本語仮訳

熊本藩初代藩主、加藤清正（1562-1611）は、ここ加藤神社に神として祀られています。実際のお墓は、市の西部にある本妙寺に位置しています。

毎年正月には、地元で「清正公さん」と呼ばれている神様にご利益を祈願するため、3日間で約40万人の人々が加藤神社を参拝します。清正は、1588年から肥後国（現在の熊本県）の北半分、1600年からは肥後国全域の領主となりました。大規模な治水事業を行い、地元の川を治めるとともに、安全で肥沃な土地にし、現在の熊本の礎を築きました。大工と戦士のための神様

加藤清正は、土木・建築に関する類稀なる才能から、建築家や大工から尊敬を集めています。清正は、徳川幕府（1603-1867）樹立への転換点となった1600年の関ヶ原の戦いにおいても、負け知らずであり、日本では剣道や野球などの競技をする人々の間で有名です。また、加藤が「勝とう」と音が同じであることから、人々は清正に病気の克服や難関校の合格などのご利益を祈願します。

点線囲み：加藤清正の概要

実線囲み：記載を最小限に留めた情報

訪日外国人旅行者が求める解説とは？

日本人と外国人旅行者では、日本の歴史、文化、自然等に関する知識や認識が異なるため、日本人の目線では思わない、感じない、気がつかないことに疑問や興味・関心を持つことがあります。訪日外国人旅行者が目にする解説文には、彼らの疑問を解消する情報提供が求められます。

地域においては、地域が一方向的に伝えたい情報だけを提供することがないよう、次のセクションで挙げる訪日外国人旅行者の興味・関心点を踏まえて、解説文作成を行いましょう。なお、興味・関心を把握する方法として、SNS（例：インフルエンサーの Instagram）や口コミサイトのユーザーコメントを参考にし、また地域在住の外国人へのヒアリングなどもあります。

韓国語圏旅行者が興味・関心を示す対象物及び内容

平成 30 年度の本事業において、訪日外国人旅行者を対象に解説文に対する満足度調査を実施し、各地域を訪問した際に知りたいと思う情報がどのようなものかを尋ねました（p. 18 参照）。

文化財施設においては、文化財の解説文を読む際は、文化財の持つ歴史的な意味やストーリー、日本独自の精神性や文化などの情報に高い興味・関心が寄せられました。

国立公園の自然などに関する解説文を読む際は、その地域に生息する動植物等の情報に加えて、その地域で体感・体験することのできる文化や風景、行事といった地域にまつわる情報を得られることを期待する声が多くあがりました。自然を重要な観光資源とアピールする場合、自然に関する内容が解説文の中心になりがちです。旅行者は時間とお金をかけてその地域を訪れるため、自然だけでなく文化的・歴史的な情報やその地域の文化的体験等も満喫したいと考えています。

令和 5 年度に行われた韓国語圏旅行者を対象とした調査では、「訪問したことがある日本の観光名所」について尋ねました。

その結果、著名な観光地のほか、東京では「谷根千」「下北沢」、大阪では「梅田」「難波」「鶴橋」といったような市街地の地名や、市場やショッピングモール、百貨店なども挙がっており、都市自体を楽しむ傾向も見られました。そのため、特に都市部においては、日本人の目には観光の対象と映らないような場所であっても、知られざる価値を秘めている可能性があると言えるでしょう。

文化財の解説文を読むにあたり、あなたが知りたいと思う情報は何ですか？

- 1位 90.5% 文化財の持つ歴史的な意味、ストーリーについて
- 2位 84.5% 文化財やその文化財の作法（参拝方法等）の背景にある日本独自の精神性や文化について
- 3位 75.9% 文化財の価値（日本の国宝である、重要文化財である等）



結果

文化財の解説文においては、文化財の構造（寸法、大きさ、建築様式等）よりも、歴史的な意味や背景、文化、価値などを知りたいという結果が出ました。

国立公園の自然などに関する解説文を読むにあたり、あなたが知りたいと思う情報は何ですか？

- 1位 82.3% その地域にまつわる神話など文化・歴史的な情報について
- 2位 81.8% 国立公園の面積・指定年月などの基本情報について
- 3位 78.2% その地域で体感・体験することのできる文化や風景、行事などについて



結果

国立公園の自然などに関する解説文においては、その地域に生息する動植物等の情報に加えて、その地域で体感・体験することのできる文化や風景、行事といった情報を知りたいという結果が出ました。

〔出典〕観光庁「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」アンケート調査

ポイント 3

媒体の種類や特徴に応じた文章表現に留意する

解説文は、どのような場面であってもすべて同一でよい、というわけではありません。旅行者がその媒体をいつ、どのようにして、何のために利用するのかを考慮した上で、それぞれの媒体と利用シーンに応じた適切な文章表現を選ぶ必要があります。

そのためには、掲載する媒体の用途及び長所・短所を理解すること、旅行者の旅行シーン別に発信する情報を整理すること、媒体と利用シーンに応じて文体（文章のトーン＆マナー）や文字数（下記※印を参照）を調整すること、などが求められます。特徴と一致しない文体で書かれた解説文は、読み手に違和感を与えるだけでなく、情報自体の信頼性も損ねてしまう恐れがあります。

整備対象の特徴に応じた文体に関する点では、日本語解説文をもとにして韓国語解説文を作成する場合、もとの日本語解説文が、格調を重視するあまり漢字語による専門用語が多く、日本人が読んだ場合にも十分に内容を把握できないことがあります。漢字を使っていれば日本人にはなんとなく雰囲気伝わる文章であっても、韓国語は基本的に漢字を使いませんので、漢字語を単純にハングルに置き換えただけでは伝わりません。そのため、一定の格調も有しつつ、平易な表現とする工夫が、韓国語解説文の魅力を高める重要なポイントのひとつと言えます。

※日本語の解説文 400 字の記述内容は、おおむね韓国語では 350 語前後、英語では 220 語前後となります。

● 媒体ごとの特徴に応じた文体（トーン＆マナー）と文字数

WEB ページ  旅前	【主な特徴】 ・全体像の把握が可能 ・多くの情報掲載が可能 【この媒体で推奨される文体と文字数】 ・地域の特徴が鮮明に分かるようにする ・多くの情報を適切に整理し、前後の順番、表現の強弱のつけ方に気を付ける ・1 解説文の文字数は、特に規定しない
SNS  旅前 & 旅中	【主な特徴】 ・絵や写真と共に、簡潔な情報掲載が可能 ・ピンポイントな情報掲載が可能 ・リアルタイムな最新情報の掲載が可能 【この媒体で推奨される文体と文字数】 ・地域やイベント等の特徴が鮮明に分かるようにする ・Instagram や Facebook は写真やショート動画により生き生きとした情報を伝える媒体であるため、文章はなるべく短く、端的に伝えるよう心がける ・X の場合は文字数が限られるため、厳選した内容のみを伝える

パンフレット 二次元コード



旅前

&

旅中

【主な特徴】

- ・携帯、持ち帰りが可能
- ・絵や写真とともに、簡潔な情報掲載が可能

【この媒体で推奨される文体と文字数】

- ・多くの情報を適切に整理し、前後の順番、表現の強弱のつけ方に気を付ける
- ・1 解説文の文字数は、なるべく 500 文字以内とする
- ・二次元コードによる解説文は、メイン媒体の邪魔にならず、かつしっかり補助できるものにする

解説看板 パネル キャプション



旅中

【主な特徴】

- ・目の前の対象に関する情報提供が可能

【この媒体で推奨される文体と文字数】

- ・他言語とのバランスを重要視する
- ・分かち書きが入っても読みづらい印象にならないように簡潔に、分かりやすい文章にする
- ・1 解説文の文字数は、なるべく 300 文字以内とする

音声ガイド



旅中

【主な特徴】

- ・聴覚を通して情報提供が可能

【この媒体で推奨される文体と文字数】

- ・限られた時間のなかで聞きとれ、かつ理解できる情報量にする
- ・分かりやすく親しみやすい話し言葉にする
- ・1 解説文の文字数は、なるべく 500 文字以内とする

映像



旅中

【主な特徴】

- ・視覚と聴覚を通して情報提供が可能

【この媒体で推奨される文体と文字数】

- ・限られた時間のなかで聞きとれ、かつ理解できる情報量にする
- ・簡潔で洗練されたインパクトのある表現にしように心がける
- ・字幕の場合、1 行に 20 文字以下とする

● 分野ごとに推奨される文体例

文化財	格調を備えた平易な文体 古き日本の伝統文化に相応しい品位を保ちつつ、読みやすい文体が望ましい。
自然	無駄がなく、流れるように読める美しい文体 美しい自然に相応しく、滑らかで、平易で、かつ親しみやすい文体が望ましい。
観光	軽快さを持ち合わせた可読性の高い文体 複合観光地域に相応しく、楽しく、明るく、ワクワクさせられ、読みやすく軽やかな文体が望ましい。

● 文体規定書の作成

韓国語圏旅行者にとって魅力的な解説文とするためには、韓国語に翻訳する前に英語解説文の内容を再検討することが必要です。その際、対象の地域や想定使用媒体の特徴に最も適した文体（文章のトーン＆マナー）及び文字数を定めた「文体規定書」を作成し、地域担当者及び解説作成担当の専門人材の間で共有しておくこと、意思統一をはかりやすくなります。

本事業では、前述の「媒体ごとの特徴に応じた文体（トーン＆マナー）と文字数」のほか、ハンゲルによる名称や数値の好ましい表記方法、各種の符号、文体や言い回し等についてまとめた別冊『ライティング・スタイルマニュアル』をご用意していますので、併せてご参照ください。

● 直訳調の解説文にならないようにするための留意点

元となる解説文はとても分かりやすい文章なのに、翻訳してみると、韓国語圏旅行者にはなじまない解説文になってしまった。——なかには、こんなケースも見受けられるようです。特に、英語から翻訳する場合は、文法構造のみならず、文章の展開のしかたも大きく異なりますので、英語解説文をそのままの順序で翻訳すると、いかにも翻訳調で違和感のある文章になってしまうことがあります。

原文と照らし合わせた翻訳としては「適訳」であっても、対象となる観光客のニーズにきちんと応えられているかを再確認してみる必要があります。

一度仕上げた解説文は、ネイティブの視点から再度吟味し、より自然な表現にブラッシュアップすることが必要です。その際、下記の問題点に注意してみましょう。

① 一つの文が適度な長さになっているか。

- 一文が長い場合は、原文の内容をそれぞれの要素に切り分け、必要であれば二つの文に分ける。また逆に、前の文の後にその補足となる短い文が書かれているような場合は、補足対象である語彙の修飾部として移動させるなど、文を柔軟に再構成する。

② 前後のつながりや全体の流れが不自然になっていないか。

- いったん原文から離れ、解説文全体の一貫した流れやつながりを意識して、繰り返し読み直してみる。ときには、同一解説文の別の箇所（後続の段落等）で、重複した内容や、まとめてしまってもよい内容が出てくることもあるので、文や段落の枠を超えて構成を再検討する。

③ 原文の言語に由来する、違和感のある表現が残っていないか。

- 能動態と受動態、単数と複数など、語彙や文脈によりどのように使い分けるのが適切か、英語、日本語、韓国語でそれぞれ微妙に異なることがあるので、違和感のない表現になるよう注意する。
- 英語から韓国語に翻訳する場合、そのままの文脈で翻訳すると主語が目立つ文になってしまいがちなので、主語を省略するか、単純に主語を省略しただけだと分かりにくくなるような場合は、同じ意味が伝わる文にすることを念頭に置き、文の構成を工夫する。
- 日本語から韓国語に翻訳する場合、読点が過多になり、韓国語圏旅行者にとって読みにくい文になることがあるので、翻訳後の見直しの際は注意する。日本語の助詞「の」に相当する「의」の多用についても同様である。
- 日本語文と韓国語文で読点の打ち方が異なり、一般的に日本語では多くの読点が使われているが、韓国語では分かち書きがあるため、読点なしの文のほうが自然な場合が多い。翻訳のときは、違和感のある読点の打ち方は避けるべきである。

④ 外国人にとってわかりにくい説明手法をとっていないか。

- 「畳○枚分」「東京ドーム○個分」といったような大きさを示す表現は外国人には伝わりにくいため、具体的に数字を用いた表記（韓国語の場合は単位はメートル法）とする。また、「○○と呼ばれる△△」のような、日本語の名称を軸にした説明も、外国人にとっては有益ではないので、特段必要でない場合を除き、用いない。

〈「文体規定書」に基づいた韓国語の文体〉

오유 환상열석

아키타현 가즈노시에 자리한 이 유적은 8,000개 이상의 돌이 두 개의 커다란 원 모양으로 배치된 환상 열석 유적입니다. 기원전 2,000년경에 만들어진 이 환상 열석은 돌이 배치된 모양으로 보아 태양의 움직임을 알기 위해 제작한 것으로 추정됩니다. 이 거대한 열석을 세우는 데는 엄청난 노력과 세심한 계획이 필요했을 것입니다. 구내 박물관에서는 환상 열석에 관한 정보를 소개하고 이 유적에서 출토된 토기와 의식에 사용된 물품을 전시하고 있습니다.

환상 열석의 특징

두 개의 환상 열석은 각각 안쪽 고리와 바깥쪽 고리로 구성되어 있습니다. 이 고리는 적은 수의 돌을 원형이나 마름모형 등으로 작게 늘어놓은 배석이 고리 모양으로 배치된 모습입니다. 각 환상 열석의 안쪽 고리와 바깥쪽 고리 사이의 한 곳에는 한 개의 돌을 세우고, 그 주변으로 다른 돌을 방사형으로 늘어놓은 형태의 배석이 만들어져 있습니다. 이러한 배석의 배치는 해시계의 모양과 유사하며, 하지와 동지에는 북서-남동 축을 따라 그림자가 하나의 선을 형성하도록 배열되어 있습니다. 고고학적 조사를 통해 배석 아래에서 무덤 구덩이가 발견되었는데, 이는 각각의 배석이 하나의 무덤을 나타낸다고 추정할 수 있습니다.

〈韓国語解説文の日本語仮訳〉

大湯環状列石

秋田県鹿角市にあるこの遺跡は、8000個を超える石を、2つの大きな円形をなすように配置した環状列石遺跡です。この環状列石は紀元前2000年頃のものであり、その配置から、太陽の動きを知るためのものであったと考えられます。その構築には、多大な努力と綿密な計画が必要だったことでしょう。構内の博物館では、環状列石に関する情報を紹介しており、この遺跡で出土した土器や儀式に使われた品々を展示しています。

環状列石の特徴

2つの環状列石はそれぞれ内側の環と外側の環から構成されており、これらの環は少ない数の石を円形や菱形などに小さく並べた配石が、環状に配置されて出来上がっています。各環状列石の内側の環と外側の環の間の1か所に、1つの石を立てた周りに石を放射状に並べた形の配石が作られています。この配石の配置は、時計と類似しており、夏至と冬至には、北西-南東の軸に沿って影が1本の線になるように並べられています。考古学的調査によると、配石の下に墓穴が発見されており、それぞれの配石が1つの墓を示していると考えられています。

名称の表記法を検討する

令和5年度に実施した「地域観光資源の韓国語解説整備支援事業」アンケート調査では、固有名詞の表記や、日本独自の呼び名など、各種の名称の表記法について尋ねました。目立った回答を以下にまとめます。

●「日本語の音に基づいた表記」と「韓国語の意味に基づいた表記」の使い分け

ここでいう「日本語の音に基づいた表記」とは、「固有名詞＋一般名詞」という構造の名称であっても、全体を固有名詞として表記するというものです。清水寺を例に挙げると、全体を固有名詞とみなして「기요미즈데라」(キヨミズデラ)と音で表記する方法であり、一方、「韓国語の意味に基づいた表記」とは、清水寺の清水だけを固有名詞とみなして「기요미즈 절」(キヨミズ＋「寺」の意味の韓国語)と表記する方法です。

アンケートの結果からはこのような場合、全体を固有名詞とする前者が好ましいという回答が優勢でした。「キヨミズデラ」の後ろに「寺」の意味を付け加えた「기요미즈데라 절」という書き方(英語の“Kiyomizudera temple”と類似)を用いることもできます。これは、寺院のほかにも、川や山など地形、橋などの施設名にも同じことが言えます。

ただし、一般名詞部分が漢字の音読みである「○○山(読み：さん)」「○○神社」のような場合は、○○の部分だけに対して「日本語の音に基づいた表記」を用いて「야사카 신사」(ヤサカ神社)のようにすることも多く見られます。

●表記の不統一

これはアンケートの結果で最も多かった回答です。具体的には、熊本城について「구마모토소」(クマモトジョウ)と「구마모토성」(クマモト＋「城」)が混在している例(「音表記」と「意味表記」の不統一)や、駅の西口を「서쪽통로」(西通路)としている一方で東口を「동쪽문」(東門)としている例(用語の不統一)などが挙げられました。

また、韓国語にない「つ」の音を表記する際に、似た音である「쓰」と「츰」のどちらを使うかという問題もしばしば見受けられます。韓国の国立国語院が示している日本語カナ表記法では、「쓰」とされていますので、その点では「쓰」の方が正しいと言えるかと思いますが、実際には両者が、どちらが優勢ということもなく混用されているのが実情です。

このような不統一は、可能であれば、自治体や交通機関など地域全体で連携して統一できれば望ましいですが、実際問題としてそこまでの実現は難しいかもしれません。そのため、せめて同一主体が作成、掲示する解説文においては表記を統一することが、信頼性の高い解説文を作ることにつながるのではないのでしょうか。

● 直訳による伝達不十分や違和感

これは、補足説明をしたり言い換えたりすることなく、日本語をそのままハングルで表記した場合に意味が分かりにくいというもので、例として、「미치노에키」(ミチノエキ)や「시로에비」(シロエビ)などが挙げられました。また、「交番は『警察』または『POLICE』と表記すべき」という意見もありました。

さらに、事物の名称についても、日本語と韓国語で表現の違いがあり、例えば、美容液と乳液は、直訳の「미용액」(美容液)、「유액」(乳液)ではなく、それぞれ「스킨」(スキン)、「로션」(ローション)と言うべきという意見がありました。「朝鮮半島」「朝鮮戦争」といった語についての指摘もあり、韓国語圏ではそれぞれ「한반도」(韓半島)、「6.25 전쟁」(6.25 戦争)といますので、これについても、韓国語圏旅行者に向けた解説文であれば、韓国語圏での言い方に合わせるのが望ましいのではないかと思います。

このように、同じ事物であっても、現地で実際にどのように呼ばれているのか把握した上で訳語を選択する必要があります。

● 時代区分や元号の表記

アンケートでは、元号を使った和暦及び「平安時代」「江戸時代」といった時代区分を用いた記述について、どのようにするのが望ましいか、あるいは配慮すべきであるか尋ねました。その結果、元号や時代区分を表記する場合は、該当する西暦年号や世紀を併記するという意見が優勢でした。このことから、韓国語圏旅行者には日本固有の元号や時代区分の表記については概ね問題なく受け入れられており、必要に応じて西暦等を括弧書きするという表記法で問題ないと思われます。

ただ、特に寺社や城跡などの解説文では比較的高い頻度で年号が現れることとなりますが、元号による表記を主体とすると、それに伴って西暦年号の括弧書きも多くなり、読みにくくなる可能性がありますので、文脈上、特に必要な場合を除いては、西暦年号を用いて表記するのが外国旅行者向けには望ましいと考えられます。

専門性と経験を備えた人材を確保する

先に挙げた 1 ～ 4 のポイントに沿って、韓国語圏旅行者の立場に立った情報を盛り込みつつ韓国語解説文を整備するには、専門性と経験を備えた人材を確保することが不可欠です。

人材の確保にあたっては、解説文を作成する対象物の特性（文化財、自然、食文化、伝統、芸能等）と、専門人材が得意とする地域・分野が合致していることが重要です。

専門人材の起用に求められる要件

本事業で実際に起用した要件を参考に示します。地域においてすべての専門人材を確保することは困難であることが想定されますが、可能な限り下記の要件を満たす人材を起用することを推奨します。

翻訳者



【役割】英語解説文またはエディターが修正した日本語原稿を元に、地域と媒体の特徴に適した文体表現を用いて、韓国語に翻訳編集する。

【要件】

- ・韓国語を母国語とする
- ・大卒以上の学歴
- ・5年以上の英韓または韓日翻訳歴を持つ

エディター
(メイン)

【役割】英語解説文を韓国語圏旅行者の視点から内容を検証し、必要に応じて取捨、追記、編集する。また必要に応じて、韓国語解説文のブラッシュアップをサポートする。

【要件】

- ・韓国語を母国語とする
- ・ネイティブレベルに近い英語力または日本語力を有する
- ・韓国語圏訪日客の興味・関心を熟知している
- ・日本の自然、文化財、観光等の分野に一定の知見を持つ

エディター
(サブ)

【役割】英語解説文の事実確認を実施し、メインエディターの作業をサポートする。

【要件】

- ・日本語を母国語とする
- ・ネイティブレベルに近い英語力を有する
- ・日本の自然、文化財、観光等の分野に一定の知見を持つ

校閲者



【役割】翻訳者が翻訳し、エディターが編集した韓国語解説文の意味や内容について、誤用や事実誤認などの有無を確認し、翻訳者に修正を指示する。

【要件】

- ・韓国語を母国語とする
- ・大卒以上の学歴
- ・5年以上の書籍執筆または編集歴を持つ

スタイル
チェッカー

【役割】翻訳者が翻訳し、エディターが編集した韓国語解説文について、本事業の『ライティング・スタイルマニュアル』に基づき、ライティング・スタイルの統一を行う。

【要件】

- ・韓国語を母国語とする
- ・本事業の『ライティング・スタイルマニュアル』の内容を理解し、校閲できる

ディレクター



【役割】全体企画（検証基準設定・スタイル文体策定）、事務局への定期進捗報告のまとめ及び各作成実務チームへのオリエンテーション、進捗・危機管理を行う。

【要件】

- ・韓国語を母国語またはそれに近いレベルで運用できる
- ・事業の企画・執行管理の経験が豊富にある
- ・事業全体の進捗を円滑に遂行できる

第 3 章

韓国語解説文作成の 進め方

韓国語解説文は、具体的にどのような手順で
作成すればよいでしょうか？

また、その準備にはどのくらいの期間が必要でしょうか？

韓国語解説文の作成の手順をステップに分けて詳細に説明します。

韓国語解説文作成手順の 全体的な流れ

本事業は以下の作成工程で実施しました。質の高い解説文を効率よく作成するためには、事業に当たる地域においても、専門人材においても、各ステップの内容を十分に理解することが重要です。

【専門人材の役割】

ディレクター：関係者折衝

校閲者：翻訳チェック

エディター：編集・推敲

スタイルチェッカー：スタイルチェック

翻訳者：英語（または エディターが修正した日本語原稿）
からの翻訳



事業の主体者もメインとなって推進することの重要性

橋本・伊都広域観光協議会（和歌山県、平成 31 年／令和元年度参加）の談話

専門人材へ上質な情報を提供し、それを元に書き起こされた解説文を地域と内容監修者が確認。大事な工程です。

日本人向けの解説文を英語に直訳しただけでは訪日外国人旅行者には伝わらないのではないかとずっと思っていました。そのため、現地取材では外国人ライターにどれだけ観光地の特性をインプットできるかがポイントでした。加えて、納品前に解説文の記述について事実確認を行うことも我々の大事な工程でした。本事業を通じて、訪日外国人旅行者の満足度を考えていくプロセスの体験ができたことは勉強になりました。この事業をきっかけに、訪日外国人旅行者に高野山をきちんと理解してもらい、リピートしてもらう。そのことが地域の子どもの英語学習にもつながっていき、観光客を受け入れる人材も流出しなくなる。そういった流れができれば、本当に高野山は持続可能な観光地域になっていくと思っています。

【凡例】 ◎：主担当 ●：担当 (●)：必要に応じて

STEP 4

韓国語翻訳と日本語仮訳

内容

翻訳（一次訳→校閲→日本語仮訳）

担当者

- ディレクター
- ◎ 翻訳者
- ◎ エディター（メイン）
- ◎ エディター（サブ）
- ◎ 校閲者

完了の 2 ヶ月前

4

STEP 5

地域確認（2 回目）

内容

日本語仮訳の内容確認
韓国語監修者がいる場合は
韓国語解説文の確認

担当者

- ディレクター
- (●) エディター（メイン）
- (●) エディター（サブ）

完了の 1 ヶ月前

5

STEP 6

韓国語解説文と日本語仮訳
の最終仕上げ

内容

地域の意見を精査し、
最終修正調整を行う

担当者

- ディレクター
- ◎ 翻訳者
- (●) エディター（メイン）
- (●) エディター（サブ）
- ◎ 校閲者
- ◎ スタイルチェッカー

完了の 2 週間前

6

完了

STEP 7 地域納品

韓国語向けにふさわしい内容の 解説文の下準備（STEP 1 ～ STEP 3）

事前準備

STEP 1

専門人材の確保

本事業では、観光庁多言語事業の英語解説文を活用し、韓国語解説文の作成を行うために、下記の人材を起用することとします。それぞれの人材は、韓国語を母国語とするほか、英語または日本語のネイティブレベルに近い言語力を有し、かつ、業務経験を豊富に持ち合わせていることを要件とします（詳細は pp. 26-27、「専門人材の起用に求められる要件」を参照）。

- ・ 翻訳者
- ・ エディター
- ・ 校閲者
- ・ スタイルチェッカー
- ・ ディレクター



内容検証

STEP 2

英語解説文の検証

〈ディレクター・エディター（・有識者）〉

対象となる読み手を明確にイメージしながら、既存の英語解説文の内容を検討し、韓国語圏旅行者の視点に立って①読み手が魅力とを感じる要素の追記（事実確認も含む）及び②より分かりやすくするための表現の文体（トーン＆マナー）設定の２点における検証作業を行います。この作業を通じて、韓国語圏旅行者向けの訴求ポイント等の調整を行います。

検証結果を示す際には、信頼に値する根拠を併せて明記することが必要です。

また、地域での解説文の内容確認に供するため、解説文の日本語仮訳を作成します。

※地域に外国語を閲読できる人材が十分にいない場合に備え、韓国語解説文の要素を確認できるように日本語仮訳を用いて地域確認を行います。なお、この段階での日本語仮訳は、韓国語解説文に盛り込むべき要素についての内容確認を目的とします。

STEP 3

地域確認（1回目）

確認の流れとポイント

専門人材から地域へ

韓国語圏旅行者が魅力とを感じる事項の追記等、調整すべき内容や表現に関する提案を行います。



地域側の対応

専門人材からの提案について、適切に対応・回答します。

- ・差支えがないか、事実に齟齬がないかを確認します。
- ・指摘内容や修正依頼内容が適切に反映されているかどうかを確認します。
- ・専門人材側に修正依頼する際、指摘事項に関する根拠資料等も添付して回答します。



専門人材側の対応

地域からの回答を反映し、解説文に盛り込む内容及び文体（文章のトーン＆マナー）の設定を確定します。

地域確認の実例を次ページで紹介しています ▶

参考 本事業の地域確認（1回目）の実例（地域に渡して確認を受けるまで）

(1) 専門人材が提案する韓国語圏旅行者が魅力とを感じる追記や調整内容、表現の設定に対して、差支えがないか、事実と齟齬がないかを地域側が確認する

※地域と専門人材の双方が確認しやすくするため、追記・調整、修正・承認した箇所を色分けする

<英語解説文>

Higo Inlay

Higo is the old name for Kumamoto, and the traditional craft of Higo inlay involves engraving intricate designs into iron, then inlaying them with silver or gold. The iron is then rust-proofed and blackened with a tea solution to create a very strong color contrast.

The technique originally came to Japan from Europe. It became a popular Kumamoto craft in the early seventeenth century under Hirata Hikoza, a blacksmith whom Hosokawa Tadaoki (1563–1646) brought to the city from Omi Province (present-day Shiga Prefecture). Local metalworkers started producing ornamental gun barrels, sword guards, and smoking pipes exclusively for the samurai class.

A Shift in the Market

The bottom dropped out of the Higo inlay market when the Meiji government passed an edict banning the wearing of swords in 1876 and began to strip the samurai of their centuries-old privileges. This forced the craftsmen to cater to the needs of a less-elevated clientele. The roughly 15 Higo inlay craftsmen still practicing in Kumamoto today make items like cufflinks, tie pins, pendants, and pens. Official efforts are being made to promote this ancient craft. When Japan hosted the G7 Summit in 2016, then prime minister Abe Shinzo gave each of his fellow world leaders a fountain pen decorated with Higo inlay. When Kumamoto hosted the 24th IHF Women's Handball World Championships in 2019, the medals were decorated with Higo inlay.

<色分け例>

- ・新規追記: 赤文字
- ・調整箇所: 青文字

<英語解説文の日本語仮訳>

肥後象嵌

肥後は熊本~~の旧称であり~~、伝統工芸品である肥後象嵌（~~肥後は熊本~~の旧称~~~~）は、鉄に複雑な文様を彫り込み、銀や金の象嵌を施したものです。鉄に錆び止めを施し、茶液で黒くすることで、非常に強い色のコントラストを生み出しています。

象嵌はもともと~~は~~ヨーロッパから日本に伝わった技術で、~~す。~~17世紀初頭、細川忠興（1563-1646）が近江国（現在の滋賀県）から連れてきた鍛冶屋・平田彦三のもとで、人気の工芸品となりました。~~その後、~~地元の金工職人~~たちも腕を磨きは~~、武士に納めるために、象嵌の装飾を施した銃身や刀の鐔、煙管などの製造を始めました。

市場の変化

1876年、明治政府が~~刀を提げて外出することを禁ずる~~廃刀令を出し、数世紀にわたって武士に与えられていた特権が~~失われたを剥奪した~~ことで、~~肥後の象嵌市場は基盤が崩れました~~肥後象嵌は~~その市場を失い。~~そのため、職人たちは~~庶民より身分の低い客層~~のニーズに応えることを余儀なくされました。現在も熊本では15人ほどの肥後象嵌職人が活動しており、カフスポタン、ネクタイピン、ペンなどを作っています。日本政府では現在、この伝統工芸品の普及に向けた取り組みを行っており、2016年に日本で開催されたG7サミットでは、当時の安倍晋三首相が、肥後象嵌を施した万年筆を各国首脳に贈りました。また、2019年に熊本で開催された第24回世界女子ハンドボール選手権大会のメダルには肥後象嵌が施されていました。

<書き換えのご確認>

このようにした方が韓国語では納まりがよいと思いますが、ほかの解説文で肥後とは熊本のことであるということを述べていますので、この括弧書きはなくてもいいかもしれません。ご検討いただければと思います。

<ご確認したい箇所>

錆液を使って錆を生じさせた後、お茶で煮出して錆止めをするのではないのでしょうか。下記ページの「錆出し」→「錆止め」参照。
<https://wa-gokoro.jp/traditional/crafts/metalworks/331/>

<書き換えのご確認>

韓国語翻訳の際には主語を追加したいと思います。

<書き換えのご確認>

韓国語は、日本語と語順が殆ど同じであり助詞の使い方も似ているため、韓国語訳の際に、おかしい韓国語文になってしまいそうな箇所は文章を書き換えております。

<分かりやすさ>

韓国語圏旅行者にとって、あまり馴染みのない固有名詞は、左記のように簡単な説明をつけることで、より理解しやすいと考えます。

出典
「コトバンク・日本語大辞典」
<https://kotobank.jp/word/%E5%BB%83%E5%88%80%E4%BB%A4-112989>

・「鉄に錆び止めを施し、茶液で黒くする」

錆液を塗った素材を火で温めて赤さびを出し、お茶で煮出し、錆止めをします。

<https://mitsusuke.com/>

・他は問題ありません。

地域の見解

エディターの検証結果
内容と出典

参考 本事業の地域確認（1回目）の実例（指摘内容への対応と追加・調整）

（2）専門人材から指摘内容の確認等があったら、適切に対応し、指摘内容や修正依頼内容の反映状況を確認する。専門人材は地域からの回答を反映し、解説文に盛り込む内容及び文体（文章のトーン＆マナー）の設定を確定する

媒体及び分野別に推奨される文体設定

媒体対象者	文体（トーン＆マナー）
WEB	・ 地域の特徴を鮮明に分かるようにする ・ 多くの情報を起承転結で分かりやすく整理する ・ 訴求要素の順番、表現の強弱のつけ方に気を付ける ・ 1 解説文の文字数を特に規定しない
看板	・ 他言語とのバランスを重要視する ・ 簡潔に、分かりやすい文章にする ・ 1 解説文の文字数をなるべく 300 文字以内とする
内容（観光）	軽快さを持ち合わせた可読性の高い文体 ・ 複合観光地域に相応しく、楽しく、明るく、ワクワクさせられ、読みやすく軽やかな文体が望ましい。 ・ 上記全体トーン＆マナーを大前提としつつ、自然・レジャー・グルメはワクワク、楽しさを、温泉は安らぎ感、温かみを、歴史文化は平易、分かりやすさを意識して、解説文の内容に併せて、テイストを調整する。 ・ 観光分野ではあるが、歴史文化に関する内容が多く、格調を備えた平易な表現にするよう心がける。
使用フォント	・ 韓国語：Batang ・ 日本語：Meiryo UI

韓国語解説文の作成と確認 (STEP 4 ～ STEP 5)

韓国語化

STEP 4

韓国語翻訳と日本語仮訳

エディターの検証後の解説文は、地域の確認と了承を得た後に、韓国語への翻訳を開始します。その際は、「スタイル規定」（別冊『ライティング・スタイルマニュアル』参照）に従うこととします。最後に、編集を終えた韓国語の日本語仮訳を作成します。

本事業では、英韓翻訳を基本としながら、一部日本語の追記・調整内容もあるため、日韓翻訳の知見を有する専門人材（翻訳者、エディター、校閲者）の参加が必要です。

	韓国語
手順 1 翻訳・ 文字変換	【翻訳】英語解説文 + 調整箇所の日本語に準じて英韓・日韓翻訳者による翻訳編集
手順 2 校閲	手順 1 の完成原稿に対して校閲者による専門用語・文体に対するチェック & 全体のブラッシュアップ
手順 3 日本語仮訳	手順 2 の完成原稿に準じて翻訳者による日本語仮訳作成
手順 4 初稿完成	手順 2 と 3 の完成原稿を合体させ 韓国語解説文及び日本語仮訳の初稿を完成させる

STEP 5

地域確認（2回目）

地域での2回目の確認作業にあたるこの段階では、韓国語解説文を中心に、「地域確認（1回目）」において承認した変更内容が適切に反映されているかどうかを確認するとともに、韓国語解説文の表現や文体（文章のトーン＆マナー）等についての校閲を行います。

この段階での確認作業は、韓国語解説文の品質を担保する上で最も重要です。そのため、解説文を作成する専門人材とは別に、地域（観光資源の所有者や管理者等解説文を整備しようとする者）においても韓国語で解説文を監修・校閲できる者を確保することが望まれます。しかし、地域でそのような人材の確保ができない場合は、制作事業者と協議の上、制作事業者が手配することとします。その他にも、地域において韓国語のネイティブ話者の校閲者を確保し、第三者チェックを行うことが望ましいでしょう（これらの人材の詳細要件は pp. 26-27、「専門人材の起用に求められる要件」を参照）。

確認の流れとポイント

専門人材から地域へ

作成した韓国語解説文及びその日本語仮訳を、地域側の確認用に送付します。



地域側の対応

新規追記、調整した箇所も含む内容全体について、事実に齟齬がないかを確認します。

- ・（地域確認1回目と同様に）専門人材側への修正依頼や指摘事項がある場合は、根拠資料等も添付して回答します。
- ・地域確認1回目・2回目で指摘した内容について、専門人材から再確認依頼やフィードバック等があれば適切に対応し、指摘内容や修正依頼内容が適切に反映されているかどうかを確認します。

地域確認の実例を次ページで紹介しています ▶

参考 本事業の地域確認（2回目）の実例（地域に渡して確認を受けるまで）

（1）地域は韓国語解説文及びその日本語仮訳に対して、新規追記、調整した箇所も含めて、全体の内容が事実に齟齬がないかを確認。地域に韓国語のネイティブ話者がいる場合、韓国語解説文の内容や表現が韓国語圏旅行者にとって分かりやすいものになっているかをチェックする

※地域と専門人材の双方が確認しやすくするため、追記・調整、修正・承認した箇所を色分けする

＜韓国語＞

히고상감

전통 공예품 중 하나인 히고 상감(히고는 구마모토의 옛 이름)은 철에 복잡한 문양을 새긴 후 은이나 금을 박아넣는 것을 말합니다. **녹물을 바른 소재(철판)에 열을 가해 붉은 녹이 슬도록 만든 후, 찻물(탄닌)에 끓여내 녹을 방지하는 과정을 통해** 강렬한 대비를 보여주는 색상을 만들어 냅니다.

상감은 본래 유럽에서 일본으로 전해진 기술로 17세기 초, 호소카와 다다오키(1563-1646)가 오미국(지금의 시가현)에서 데려온 대장장이 히라타 히코조를 시작으로 인기 공예품으로 자리 잡았습니다. **그 후 지역 금공** 장인들도 기술을 갖고닥으며 무사에게 헌납하기 위해 상감 장식을 새긴 총신과 칼날, 담뱃대 등을 제조하기 시작했습니다.

시장의 변화

1876년에 메이지 정부가 **칼을 차고 외출하는 것을 금지하는 폐도령(廢刀令)**을 내리면서 수 세기에 걸쳐 무사들에게 부여되었던 특권이 **상실되었고, 이로 인해 히고 상감은 무사들을 대상으로 한 시장을 잃게 되면서** 장인들은 서민들의 욕구를 충족시킬 수밖에 없는 상황에 처했습니다. 구마모토에서는 지금도 약 15명의 히고 상감 장인이 활동하고 있으며 커프스 버튼, 넥타이핀, 펜던트, 펜 등을 만들고 있습니다. 현재 일본 정부는 히고 상감을 보급하고자 노력하고 있으며, 그 일환으로 2016년에 일본에서 개최된 G7 정상회의에서는 당시 아베 신조 총리가 히고 상감 기법을 활용한 만년필을 각국 정상들에게 선물했습니다. 또한, 2019년 구마모토에서 개최된 제24회 세계여자핸드볼선수권대회에서 수여된 메달에는 히고 상감 기법이 사용되었습니다.

히고 상감에 대한 자세한 내용은 구마모토현 전통 공예관에서 알아볼 수 있으며, 구마모토성 인근 전통 매장에서는 워크숍도 개최합니다.

＜色分け例＞

- ・新規追記: 赤文字
- ・調整箇所: 青文字
- ・確認①修正: 黄色蛍光文字

【修正指示】
(鉄板)
(タンニン)
をそれぞれ追加してください。

【修正指示】
「廢刀令」の表記は
「폐도령(廢刀令)」と漢字も
併記をお願いします。

＜韓国語解説文の日本語仮訳＞

肥後象嵌

肥後は熊本~~の旧称であり~~、伝統工芸品である肥後象嵌(肥後は熊本~~の旧称~~)は、鉄に複雑な文様を彫り込み、銀や金の象嵌を施したものです。 **鍍液を塗った素材(鉄板)を火で温めて赤さびを出し、お茶(タンニン)で煮出し、鍍止めをする鉄に鍍び止めを施し、茶液で黒くすることで、非常に強い色のコントラストを生み出しています。**

象嵌はもともとヨーロッパから日本に伝わった技術で、~~す~~17世紀初頭、細川忠興(1563-1646)が近江国(現在の滋賀県)から連れてきた鍛冶屋・平田彦三のもとで、人気の工芸品となりました。 ~~その後~~、地元の金工職人 **たちも腕を磨きは**、武士に納めるために、象嵌の装飾を施した銃身や刀の鐔、煙管などの製造を始めました。

市場の変化

1876年、明治政府が **刀を提げて外出することを禁ずる** 廢刀令を出し、数世紀にわたって武士に与えられていた特権が **失われたを剥奪した**ことで、 **肥後の象嵌市場は基盤が崩れました肥後象嵌はその市場を失い**。そのため、職人たちは **庶民より身分の低い客層** のニーズに応えることを余儀なくされました。現在も熊本では15人ほどの肥後象嵌職人が活動しており、カフスボタン、ネクタイピン、ペンダント、ペンなどを作っています。日本政府では現在、この伝統工芸品の普及に向けた取り組みを行っており、2016年に日本で開催されたG7サミットでは、当時の安倍晋三首相が、肥後象嵌を施した万年筆を各国首脳に贈りました。また、2019年に熊本で開催された第24回世界女子ハンドボール選手権大会のメダルには肥後象嵌が施されていました。

【修正指示】
(鉄板)
(タンニン)
をそれぞれ追加してください。

地域の見解

(2) 専門人材から指摘内容の確認またはフィードバックがあったら、適切に対応し、指摘内容や修正依頼内容の反映状況を確認する

<韓国語>

히고상감

전통 공예품 중 하나인 히고 상감(히고는 구마모토의 옛 이름)은 철에 복잡한 문양을 새긴 후 은이나 금을 박아넣는 것을 말합니다. 녹물을 바른 소재(철판)에 열을 가해 붉은 녹이 슬도록 만든 후, 찻물(탄닌)에 끓여내 녹을 방지하는 과정을 통해 강렬한 대비를 보여주는 색상을 만들어 냅니다.

상감은 본래 유럽에서 일본으로 전해진 기술로 17세기 초, 호소카와 다다오키(1563-1646)가 오미국(지금의 시가현)에서 데려온 대장장이 히라타 히코조를 시작으로 인기 공예품으로 자리 잡았습니다. 그 후 지역 금공 장인들도 기술을 갈고닦으며 무사에게 헌납하기 위해 상감 장식을 새긴 총신과 칼날, 담뱃대 등을 제조하기 시작했습니다.

시장의 변화

1876년에 메이지 정부가 칼을 차고 외출하는 것을 금지하는 폐도령(廢刀令)을 내리면서 수 세기에 걸쳐 무사들에게 부여되었던 특권이 상실되었고, 이로 인해 히고 상감은 무사들을 대상으로 한 시장을 잃게 되면서 장인들은 서민들의 욕구를 충족시킬 수밖에 없는 상황에 처했습니다. 구마모토에서는 지금도 약 15명의 히고 상감 장인이 활동하고 있으며 커프스 버튼, 넥타이핀, 펜던트, 펜 등을 만들고 있습니다. 현재 일본 정부는 히고 상감을 보급하고자 노력하고 있으며, 그 일환으로 2016년에 일본에서 개최된 G7 정상회의에서는 당시 아베 신조 총리가 히고 상감 기법을 활용한 만년필을 각국 정상들에게 선물했습니다. 또한, 2019년 구마모토에서 개최된 제24회 세계여자핸드볼선수권대회에서 수여된 메달에는 히고 상감 기법이 사용되었습니다.

히고 상감에 대한 자세한 내용은 구마모토현 전통 공예관에서 알아볼 수 있으며, 구마모토성 인근 전통 매장에서는 워크숍도 개최합니다.

<色分け例>

- ・新規追記: 赤文字
- ・調整箇所: 青文字
- ・確認①修正: 黄色蛍光文字
- ・確認②修正: 水色蛍光文字

【修正指示】

(鉄板)
(탄닌)
をそれぞれ追加してください。

【修正指示】

「廢刀令」の表記は
「폐도령(廢刀令)」と漢字も
併記をお願いします。

<韓国語解説文の日本語仮訳>

肥後象嵌

肥後は熊本~~の旧称であり~~、伝統工芸品である肥後象嵌(肥後は熊本~~の旧称~~)は、鉄に複雑な文様を彫り込み、銀や金の象嵌を施したものです。鍍液を塗った素材(鉄板)を火で温めて赤さびを出し、お茶(タンニン)で煮出し、錆止めをする鉄に錆び止めを施し、茶液で黒くすることで、非常に強い色のコントラストを生み出しています。

象嵌はもともとヨーロッパから日本に伝わった技術で、~~す~~17世紀初頭、細川忠興(1563-1646)が近江国(現在の滋賀県)から連れてきた鍛冶屋・平田彦三のもとで、人気の工芸品となりました。その後、地元の金工職人~~たちも腕を磨きは~~、武士に納めるために、象嵌の装飾を施した銃身や刀の鐔、煙管などの製造を始めました。

市場の変化

1876年、明治政府が刀を~~掲げて外出することを禁ずる~~廢刀令を出し、数世紀にわたって武士に与えられていた特権が~~失われたを剥奪した~~ことで、肥後の象嵌市場は~~基盤が崩れました~~肥後象嵌はその市場を~~失い~~。そのため、職人たちは~~庶民より身分の低い客層~~のニーズに応えることを余儀なくされました。現在も熊本では15人ほどの肥後象嵌職人が活動しており、カフスポタン、ネクタイピン、ペンダント、ペンなどを作っています。日本政府では現在、この伝統工芸品の普及に向けた取り組みを行っており、2016年に日本で開催されたG7サミットでは、当時の安倍晋三首相が、肥後象嵌を施した万年筆を各国首脳に贈りました。また、2019年に熊本で開催された第24回世界女子ハンドボール選手権大会のメダルには肥後象嵌が施されていました。

【修正指示】

(鉄板)
(탄닌)
をそれぞれ追加してください。

地域の見解

韓国語解説文の完成 (STEP 6 ~ STEP 7)

最終調整

STEP 6

韓国語解説文と日本語仮訳の最終仕上げ

〈ディレクター・エディター・校閲者〉

地域からの指摘・依頼を踏まえ、編集・校閲を行います。

〈スタイルチェッカー〉

調整後の韓国語解説文に対し、スタイルチェッカーは、韓国語解説文の『ライティング・スタイルマニュアル』に基づいて、段落・フォントなどの書式や固有名詞の表記、句読点・引用符などの符号の使い方など、ライティング・スタイルの統一を最終確認します。

参考 本事業のスタイルチェッカーによる確認の実例

〈韓国語〉

히고상감

전통 공예품 중 하나인 히고 상감(히고는 구마모토의 옛 이름)은 철에 복잡한 문양을 새긴 후 은이나 금을 박아넣는 것을 말합니다. 녹물을 바른 소재(철판)에 열을 가해 붉은 녹이 슬도록 만든 후, 찻물(탄닌)에 끓여내 녹을 방지하는 과정을 통해 강렬한 대비를 보여주는 색상을 만들어 냅니다.

상감은 본래 유럽에서 일본으로 전해진 기술로 17세기 초, 호소카와 다다오키(1563-1646)가 오미국(지금의 시가현)에서 데려온 대장장이 히라타 히코조를 시작으로 인기 공예품으로 자리 잡았습니다. 그 후 지역 금공 장인들도 기술을 갈고닦으며 무사에게 헌납하기 위해 상감 장식을 새긴 총신과 칼날, 담뱃대 등을 제조하기 시작했습니다.

시장의 변화

1876년에 메이지 정부가 칼을 차고 외출하는 것을 금지하는 폐도령(廢刀令)을 내리면서 수 세기에 걸쳐 무사들에게 부여되었던 특권이 상실되었고, 이로 인해 히고 상감은 무사들을 대상으로 한 시장을 잃게 되면서 장인들은 서민들의 욕구를 충족시킬 수밖에 없는 상황에 처했습니다. 구마모토에서는 지금도 약 15명의 히고 상감 장인이 활동하고 있으며 컵스 버튼, 넥타이핀, 펜던트, 펜 등을 만들고 있습니다. 현재 일본 정부는 히고 상감을 보급하고자 노력하고 있으며, 그 일환으로 2016년에 일본에서 개최된 G7 정상회의에서는 당시 아베 신조 총리가 히고 상감 기법을 활용한 만년필을 각국 정상들에게 선물했습니다. 또한, 2019년 구마모토에서 개최된 제24회 세계여자핸드볼선수권대회에서 수여된 메달에는 히고 상감 기법이 사용되었습니다.

히고 상감에 대한 자세한 내용은 구마모토현 전통 공예관에서 알아볼 수 있으며, 구마모토성 인근 전통 매장에서 워크숍도 개최합니다.

<色分け例>

- ・新規追記: 赤文字
- ・調整箇所: 青文字
- ・確認①修正: 黄色蛍光文字
- ・確認②修正: 水色蛍光文字

【修正指示】
不要なスペースを削除。

【修正指示】
「이」を「에」へ修正。

スタイルチェッカー
の見解

STEP 7

地域納品

最後に、韓国語解説文と日本語仮訳の原稿を所定の提出様式に収め、地域協議会に納品します。

参考 本事業の地域納品の事例

<韓国語>

히고상감

전통 공예품 중 하나인 히고 상감(히고는 구마모토의 옛 이름)은 철에 복잡한 문양을 새긴 후 은이나 금을 박아넣는 것을 말합니다. 녹물을 바른 소재(철판)에 열을 가해 붉은 녹이 슬도록 만든 후, 찻물(탄닌)에 끓여내 녹을 방지하는 과정을 통해 강렬한 대비를 보여주는 색상을 만들어 냅니다.

상감은 본래 유럽에서 일본으로 전해진 기술로 17세기 초, 호소카와 다다오키(1563-1646)가 오미국(지금의 시가현)에서 데려온 대장장이 히라타 히코조를 시작으로 인기 공예품으로 자리 잡았습니다. 그 후 지역 금공 장인들도 기술을 갈고닦으며 무사에게 헌납하기 위해 상감 장식을 새긴 총신과 칼날, 담뱃대 등을 제조하기 시작했습니다.

시장의 변화

1876년에 메이지 정부가 칼을 차고 외출하는 것을 금지하는 폐도령(廢刀令)을 내리면서 수 세기에 걸쳐 무사들에게 부여되었던 특권이 상실되었고, 이로 인해 히고 상감은 무사들을 대상으로 한 시장을 잃게 되면서 장인들은 서민들의 욕구를 충족시킬 수밖에 없는 상황에 처했습니다. 구마모토에서는 지금도 약 15명의 히고 상감 장인이 활동하고 있으며 커프스 버튼, 넥타이핀, 펜던트, 펜 등을 만들고 있습니다. 현재 일본 정부는 히고 상감을 보급하고자 노력하고 있으며, 그 일환으로 2016년에 일본에서 개최된 G7 정상회의에서는 당시 아베 신조 총리가 히고 상감 기법을 활용한 만년필을 각국 정상들에게 선물했습니다. 또한, 2019년 구마모토에서 개최된 제24회 세계여자핸드볼선수권대회에서 수여된 메달에는 히고 상감 기법이 사용되었습니다.

히고 상감에 대한 자세한 내용은 구마모토현 전통 공예관에서 알아볼 수 있으며, 구마모토성 인근 전통 매장에서는 워크숍도 개최합니다.

<韓国語解説文の日本語仮訳>

肥後象嵌

伝統工芸品である肥後象嵌(肥後は熊本旧称)は、鉄に複雑な文様を彫り込み、銀や金の象嵌を施したものです。錆液を塗った素材(鉄板)を火で温めて赤さびを出し、お茶(タンニン)で煮出し、錆止めをすることで、非常に強い色のコントラストを生み出しています。

象嵌はもとヨーロッパから日本に伝わった技術で、17世紀初頭、細川忠興(1563-1646)が近江国(現在の滋賀県)から連れてきた鍛冶屋・平田彦三のもとで、人気の工芸品となりました。その後、地元の金工職人たちが腕を磨き、武士に納めるために、象嵌の装飾を施した銃身や刀の鐔、煙管などの製造を始めました。

市場の変化

1876年、明治政府が刀を提げて外出することを禁ずる廃刀令を出し、数世紀にわたって武士に与えられていた特権が失われたことで、肥後象嵌はその市場を失い、職人たちは庶民のニーズに 대응することを余儀なくされました。現在も熊本では15人ほどの肥後象嵌職人が活動しており、カフスボタン、ネクタイピン、ペンダント、ペンなどを作っています。日本政府では現在、この伝統工芸品の普及に向けた取り組みを行っており、2016年に日本で開催されたG7サミットでは、当時の安倍晋三首相が、肥後象嵌を施した万年筆を各国首脳に贈りました。また、2019年に熊本で開催された第24回世界女子ハンドボール選手権大会のメダルには肥後象嵌が施されていました。

肥後象嵌に関する詳しいことは熊本県伝統工芸館で知ることができ、熊本城の近くにある老舗のお店ではワークショップも開催されています。

※本事業の納品物の詳細は『解説文事例集』をご参照ください。

https://www.mlit.go.jp/kankocho/page05_000144.html

本事業の体制

本事業の有識者体制

韓国語解説文の品質を担保するため、本事業では、日本文化を韓国向けに紹介する知見を有する外部有識者を起用しました。

STEP5 地域確認（2回目）の前に、韓国語解説文と元の英語解説文・日本語仮訳とを併せて閲読し、内容とスタイルの両面において助言及び改善点の提言を行いました。

曹 喜澈（言語学分野担当）

韓国・大邱生まれ

日本薬科大学（韓国薬学コース）客員教授。元東海大学教授。駐日韓国大使館韓国文化院世宗学堂運営委員。

2008 年度「NHK まいにちハングル講座（入門編）」、2010 年度「NHK アンコールまいにちハングル講座」、2009 年～2010 年度「NHK テレビでハングル講座」講師。著書に『Q&A ナットク！韓国日常感覚』、『アジア語楽紀行チェジュ（済州）』（NHK 出版）、『韓国語・辞書にない俗語慣用表現』、『韓国の昔話（イエonnalイヤギ）善悪編』など（白帝社）、『ヨン様川柳（共著）』、『食わず嫌いの韓国』（グラフ社）、『現代韓国を知るキーワード 77』（大修館書店）、『1 時間でハングルが読めるようになる本』、『1 日でハングルが書けるようになる本』（Gakken）など。

主な経歴：

- ・国際観光振興会（現：国際観光振興機構）外国語ガイド試験委員（韓国語）
- ・警察大学校専門委員（韓国語講師）
- ・警察庁外国語技能試験検定専門委員（韓国語）
- ・独立行政法人大学入試センター試験委員（韓国語）

崔 瑛（観光分野担当）

韓国・ソウル生まれ

神奈川大学国際日本学部国際文化交流学科観光文化コース准教授。専門は観光学。

筑波大学システム情報工学研究科社会システム・マネジメント専攻 博士（工学）。

経営学修士（MBA）、公共政策修士（Master of Public Policy）。

2004 年に日本政府招聘の国費研究留学生として来日。研究分野は、地域ブランドと地域文化資源の観光商品化、観光起業家の育成と起業家教育、韓国を含む東アジアのインバウンド市場。

ポストコロナ時代における日本と韓国の相互好感度向上に関する研究「コロナ時代の韓日大学生の相手国に対する認識研究 ―相手国に対する好感度と観光意図の分析を中心に―」にて第 91 回韓国観光学会江原国際学術大会（The 91st TOSOK International Tourism Conference）優秀論文賞（優秀賞）を受賞。

主な経歴：

- ・日本観光研究学会 学術委員会委員（～2022 年 3 月）、交流促進委員会委員（現在に至る）
 - ・地域活性学会 学会誌編集委員会委員（現在に至る）
 - ・日本国際観光映像祭審査員（2021 年～2025 年）
 - ・成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業 再就職を目指す女性の人材育成プロジェクト～観光ビジネス編～ワーキンググループ委員及び産学官連携会議委員（～2016 年 3 月）
-

Memo

より多くの外国人旅行者に、
より多くの地域の魅力を
伝えましょう！



観光庁
Japan Tourism Agency